

概略点検の条件と野洲川の地域特性

概略点検の条件

今回の堤防の概略点検評価は、浸透破堤に対する現堤防の評価です。
想定している洪水は、既往最大洪水(S28年13号台風)です。

野洲川の地域特性

築堤経歴

放水路区間(7.2k落差工より下流)の築堤はS46年以降に施工されていますが、落差工より上流については、旧堤防の嵩上げとして評価されます。

旧河道跡

左岸7.2~9.6kにおいては、過去に多数の中小河川が存在していたと、文献調査により確認されている為、旧河道跡として評価されます。

旧南北流

下流部の旧南北流は、旧河道跡と評価されますが、現況の堤内地盤が高い為、安全であると評価されます。

被災履歴

破堤箇所は、多くの文献に記載されていますが、明確な位置が示されているものではなく、近年洪水における破堤箇所の左岸9.6k付近(S28年13号台風)を設定しています。

今後の詳細点検

今後、概略点検の評価結果をもとに、地質調査等を追加して詳細点検を実施します。

野洲川の堤防概略点検について

< 概略点検の条件 >

浸透に対する評価

既往最大洪水(S28年13号台風)

安全性の概略評価ランク

-  A: 相対的に安全性が高い
-  B: 相対的に安全性がやや高い
-  C: 相対的に安全性がやや低い
-  D: 相対的に安全性が低い

